

見いっけた

令和3年度
立山町立釜ヶ淵小学校
第1学年 学年だより
9月号

チャレンジっ子、再始動！ —どんな2学期にしたい—

9月に入って、夏休み気分も抜け、新たな2学期の学習に突入しました。

この4か月間は、1年のうちで一番子供たちの生きる力が身に付く時期です。チャレンジっ子が、いっぱい伸びようと学習や運動に取り組むことができるよう、応援していきたいと思っています。

さて、金曜日の「くらしのたしかめ」の時間、子供たちに「今、どんな気持ちでいるのかな」と問いかけました。

最初に、Kさんが「夏休みのことは、軽井沢で買い物をしたことの他は、忘れました。今は、学校のことばかり思っていて、国語の『うみのかくれんぼ』や算数のひきざんの勉強をがんばってやっていきたいと思っています」と話しました。

次に、野菜のことが話題に上がりました。野菜の種まきについて気になっている男子が多いなか、Hさんも、「野菜の種をまくことが、心にあります。とくに、大根の根が、二股に分かれないようにしたいです」と付け足してきました。発芽させるのが難しいニンジン育ててみたいと、チャレンジ精神旺盛な子供たちもいました。きっと1学期に野菜をうまく育てることができた自信が、新たな挑戦をしようという気持ちを後押ししているのでしょう。



最後に、運動会についてRさんが「前に走った時、Kさんに勝てなかったから、競争で勝ちたい」と話しました。

どの子も、夏休みの楽しかった思い出を土台にして、2学期はこんなことをしたいなという気持ちをもって臨んでいることをうれしく思いました。

花たちをありがとう！



夏休みの間、育てていただいたアサガオとジニアの花が、学校に帰ってきました。

アサガオは、いくつもの実が種を付けていました。こぼれ種から、芽が出ているものもありました。子供たちは、生活科の時間に夏とは大きく変わったアサガオをスケッチしたり、種を取ったりしました。

また、アサガオの種は、大事そうに袋に入れて、道具箱にしまっています。

人権の花運動のジニアは、オレンジ色のきれいな花を付けています。人権の花終了式では、法務局の方の「いじめをしないように」という大切な話も聞くことができました。

今年の夏は、長雨が降ったり、高温が続いたり、植物を育てるのにとっても気を遣わなくてはいけなかったと思います。子供たちと一生にお世話くださり、本当にありがとうございました。

自分たちの文化をつくる

コロナがステージ3で始まった2学期。体育や休み時間は、身体接触をしないなど、いろいろと制約されています。学校での子供たちの大きな楽しみの時間だけに、気持ちを発散するための活動を工夫しなければいけなくなっています。

そこで、チャレンジっ子は、回すことで2メートル近く距離を取ることができ、少しずつうまくなって楽しむことができるようになってきたフラフープを取り入れています。右の写真は、2つのグループに分かれて、教室とワークルームを使い、楽しく踊っている様子です。何種類かの音楽に合わせて、動き方を工夫して、楽しんでいます。



このグループは、「おどるポンポコリン」の曲に合わせて、女子が手で振り付けをし、男子がその周りを滑稽な表情をして回って演じました。見ている方のグループから、「フラフープを回しながら振りを入れるのは、とてもいい」等といった感想が出てきて、とても好評でした。いつかは、日常的にフラフープを回すことができるようになり、チャレンジっ子の教室文化の一つになってくれたらと思います。

また、友達と距離を取れる遊びとして、けん玉にも挑戦していこうと考えています。

日記のすばらしさに感動！

毎日自分で内容を決め、プラス1に取り組む子供たち。そんな中でも、時々書いてくる日記には、楽しかった出来事がたくさん詰まっているものがあり、読んでいる私の方も自然と笑顔になってきます。

9月1日のKさんの日記です。

きょうは、わんたんをつくります。なかみは、ひみつです。においは、らーめんのにおいです。わんたんは、パリパリしていて、おいしかったです。わたしは、ぐなしのわんたんをたべたことがなかったので、こんどはぐなしのわんたんをたべてみたいとおもいました。「なんだろう、このしかくいのは」とおもってなかみをあけたら、パリパリしているのがきゅうりだとわかりました。

「なかみは、ひみつです」いったい何が入っているのかな、最初は読み手を引き付ける書き方です。いつも人を楽しませることが好きなKさんらしいすてきな表し方です。次に「らーめんのにおい」では、思わず鼻をひくひくさせて、どんなにおいか、嗅いでみたくなります。さらに、「わんたんは、パリパリしていて」と耳で音を聞いて、触感まで刺激されます。それでも、中身は何なのか、読み手には知らされていないままです。じらし続けた挙句に、最後の最後に、開けたらきゅうりだったと視覚を通して、発見できた喜びとセットで読者に訴えかけてきます。文の前半は、実際にその場にいるように現在形を使い、後半は思いをぐっと読み手に伝えようと過去形を使っています。



Kさんは、何気なく日常の出来事を描いたのですが、書かれた文章はまるで作家のように精巧で計算された文章に書かれていて、とても驚きました。Kさんの才能のすばらしさが、あふれ出ている日記でした。